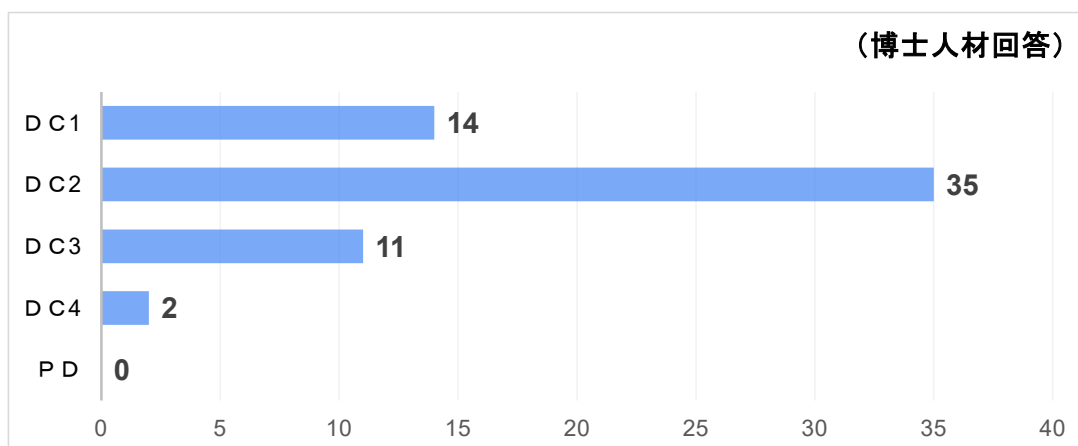


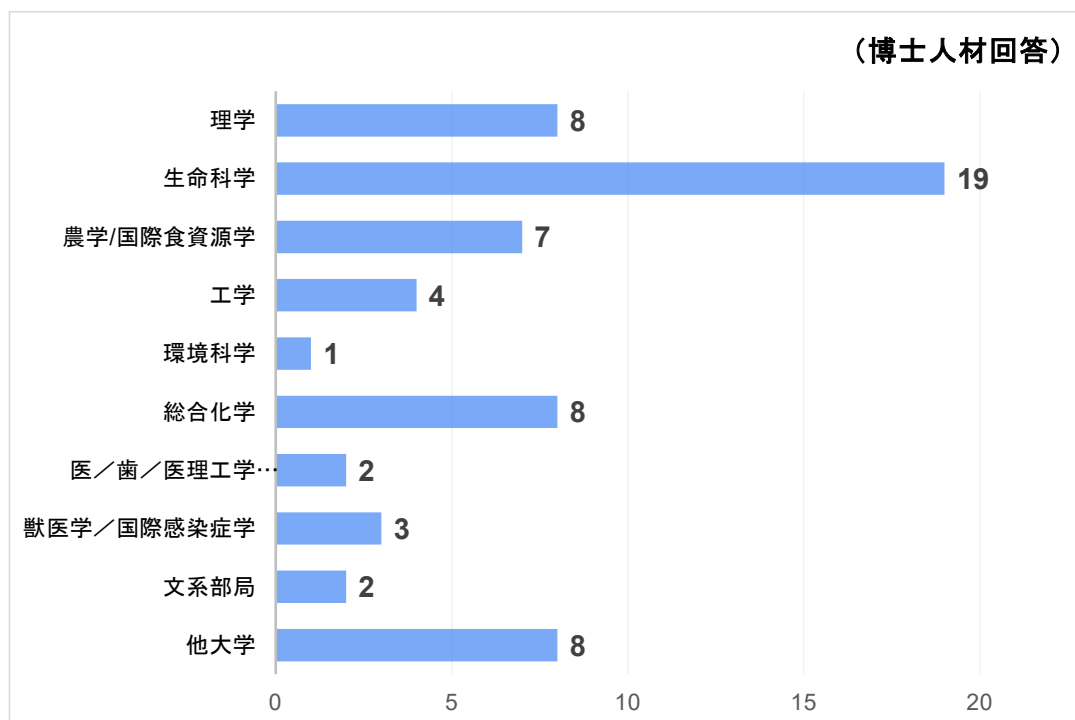
第43回（R2第1回）赤い糸会 アンケート（博士人材・企業）

[1] 回答者数：博士人材62名・企業36名（参加数：博士人材63名・企業40社）

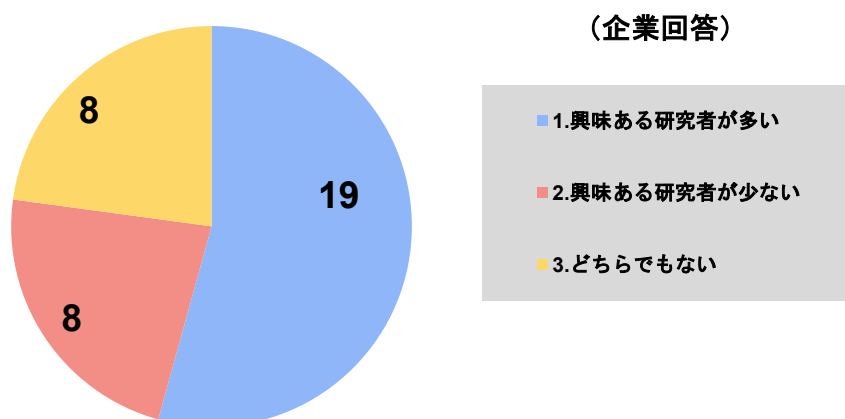
学年(博士人材)



所属(博士人材)

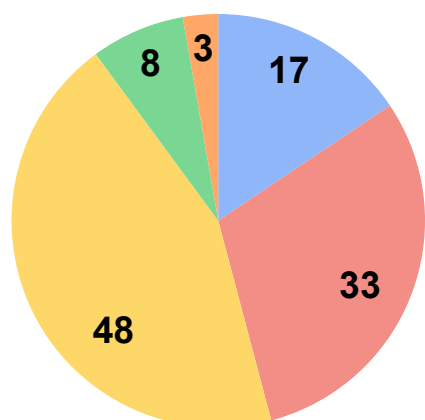


[2] 興味のある博士人材はいましたか(企業のみ)

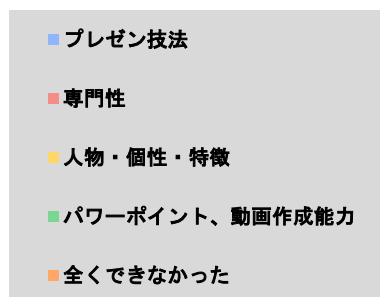


[3] プレゼンテーション動画について

【アピールできた点(博士人材)】

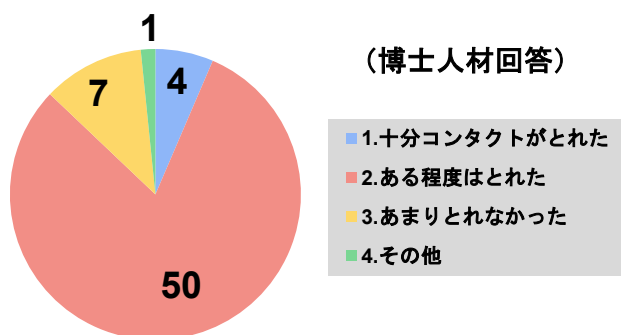


(博士人材回答)

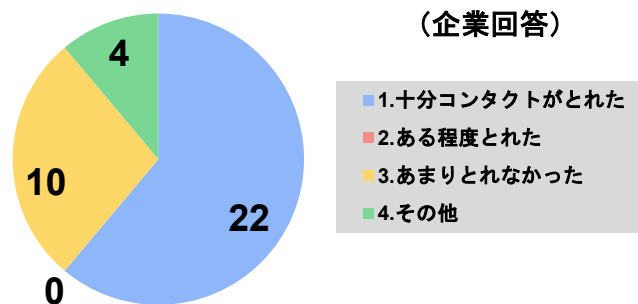
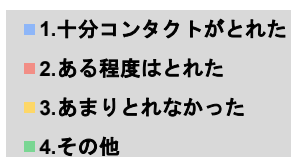


[4] 企業/博士人材とコンタクトがとれましたか

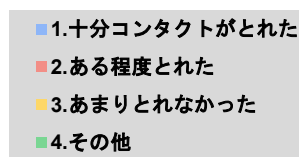
【動画等視聴・チャット／赤い系ONLINE専用サイト】



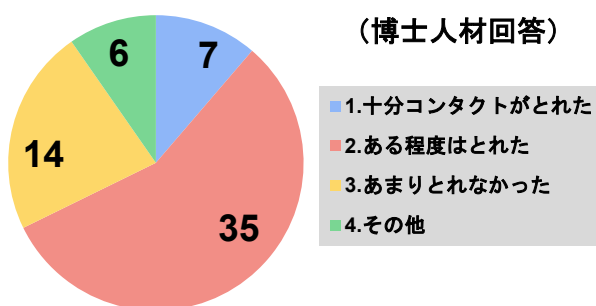
(博士人材回答)



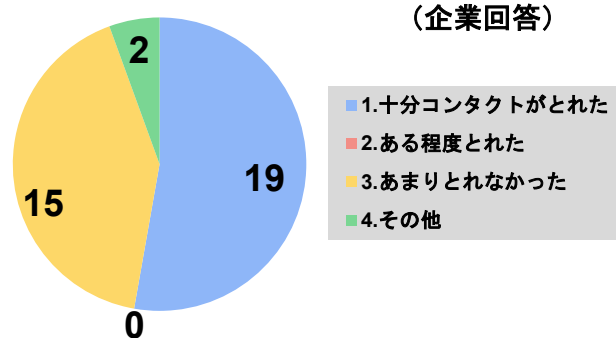
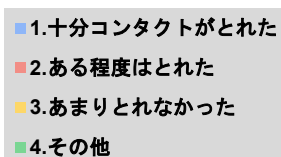
(企業回答)



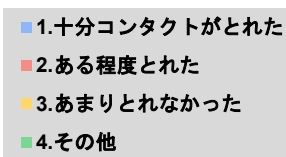
【個別交流会／zoom】



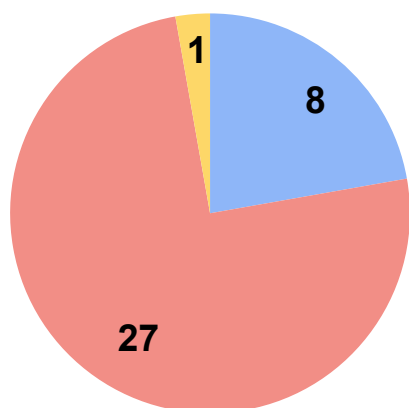
(博士人材回答)



(企業回答)



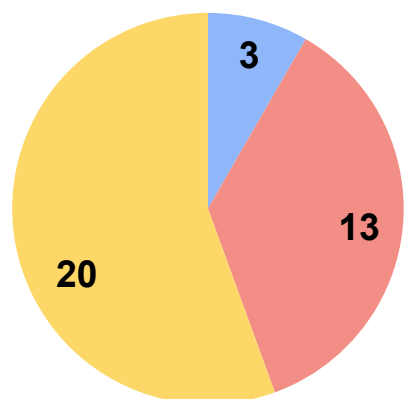
[5] 参加博士人材に対する今後の対応をお聞かせください(企業のみ)



(企業回答)

- 1. 採用したい研究者がいたので、今後も交渉を進めたい
- 2. 採用については未定だが、今後もコンタクトをとりたい研究者がいた
- 3. コンタクトをとりたい研究者はいない

[6] インターンシップについて(企業のみ)



(企業回答)

- 1. 受け入れを表明している
- 2. 受け入れてもよい
- 3. 受け入れは難しい

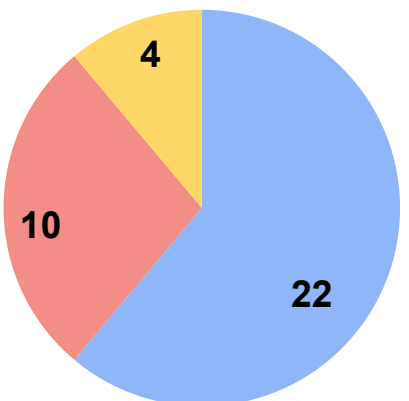
欄外コメント

- ・現状社内で体制が整っていない
- ・新型コロナウイルスの状況による
- ・1ヶ月は少し難しい
- ・・・など

受け入れを表明している企業

- ・日本電気株式会社
- ・ノーベルファーマ株式会社
- ・株式会社Ridge-i

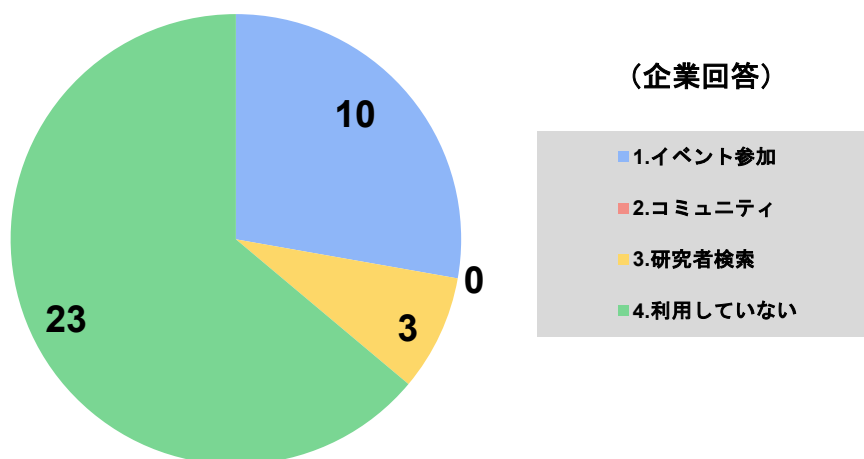
[7] PD・DC採用について(企業のみ)



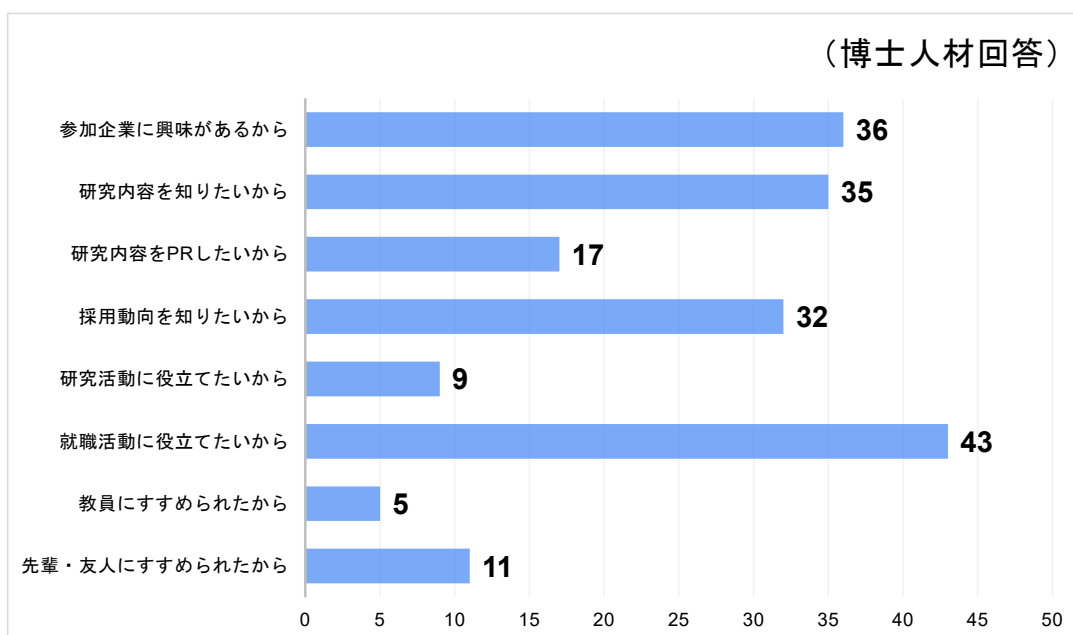
(企業回答)

- 1. 定期的に採用したい
- 2. 不定期ではあるが、採用したい
- 3. 採用については未定

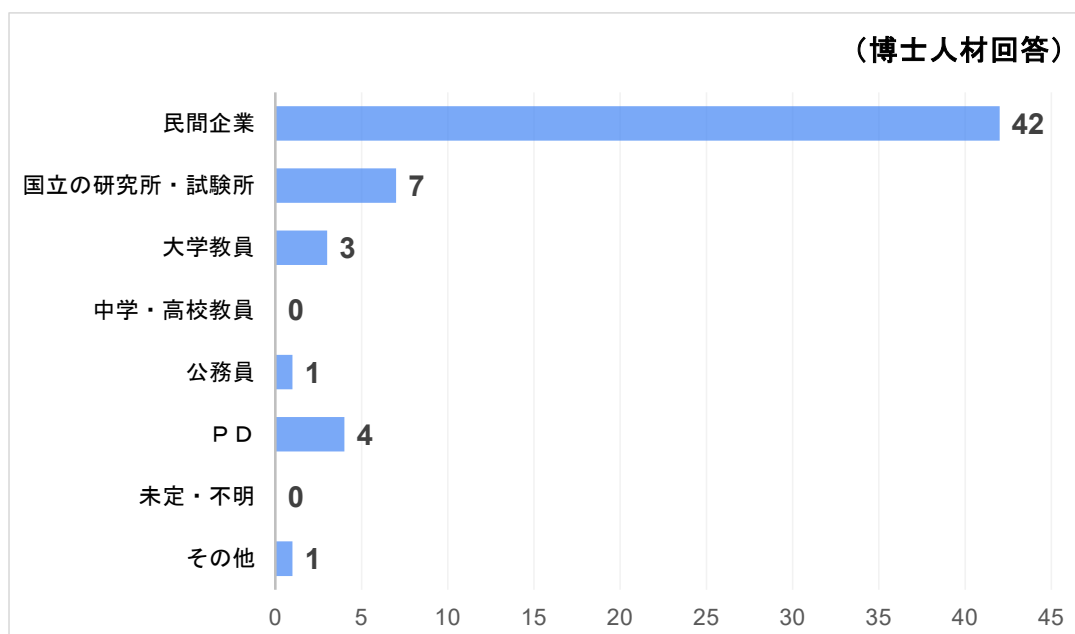
[8] Hi-System(博士人材と企業の双方向ネットワーク)はどのように利用していますか？(企業のみ)



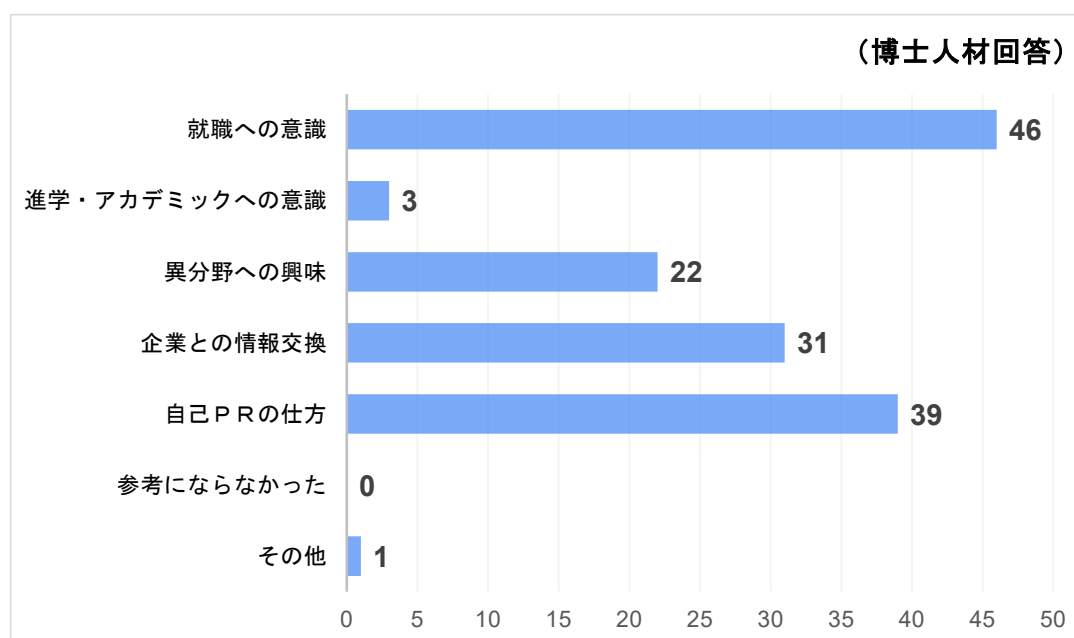
[9] 「赤い糸会」への参加理由(複数回答可)(博士人材のみ)



[10] あなたは、今後の自分のキャリアパスをどのように考えていますか？(複数回答可)(博士人材のみ)



[11] 赤い糸会はどの点が参考になりましたか？(複数回答可)(博士人材のみ)



[12] 「赤い糸会」へ参加して新たな気づきはありましたか。(博士人材のみ)

(博士人材)

1	自分が質問するのにも緊張してしまう性格であることが分かった。
2	自分の将来のキャリアや、どのような業界に行くのかを、そろそろ具体的に決める必要があるなと感じた。(面談した企業はどれも素晴らしかったです。)
3	企業によって研究の目的やとらえ方が大きく異なることに気づいた。
4	コロナウイルスによる採用へのマイナス影響をそれほど感じませんでした。
5	なし
6	自己アピールの難しさに気づきました。
7	自身の強みに気づくことができた
8	企業の求める人材を意識できた。
9	これまで事業/研究開発内容をメインに就職先を絞っていたが、特に交流会を通じて各社の風土の違いのようなものを感じ、その点も選ぶ上で非常に重要だと感じた。また他の学生の動画を見て、プレゼンテーションの見せ方の参考になった。
10	企業研究
11	企業研究が足りなかった。就活年度である来年は詳しく調べたい
12	製薬系企業のセッションにも参加してみたところ、近年では私のような異分野出身でも需要が出てきていることが分かった。また、企業の方に共有していただいた博士の早期選考の情報を基に、早めの準備に取り掛かることができると感じました。
13	いままで興味のあまりなかった企業に対しても興味をもちました。
14	企業研究も楽しそうだということ。
15	他の博士課程の方からの刺激
16	博士課程に対する理解がある企業が自分の想定より多かったです。
17	自己PRの仕方(持ち駒をどううまく使って伝えるか)、「採用」というよりは「マッチング」

[12] 「赤い糸会」へ参加して新たな気づきはありましたか。(博士人材のみ)

18	思わぬ分野で自分の専門性が活かせるということ（「化学」と名前が付いている会社でも、生物系の人材が活躍している、等）
19	ドクター採用を検討している企業が多いこと。 博士の社会的役割。
20	日本企業と外資系企業の雰囲気が異なる点が気になります。
21	異分野への就職でも、自分の専門性を強みにできる可能性があるということ
22	The image of Japanese recruitment style has changed in my mind.
23	人事の方の丁寧な説明に加えて、実際に現場でお仕事をされている方の話も伺えたので、入社後のイメージが湧きました。
24	ONLINE上でも自身の顔や身振りで個性を伝えられる。
25	会社のHPを見るだけでは分からない雰囲気が、実際に話してみても伝わってきた。社員の方とお話しする機会がいかに大事であるかが分かった。また、自分の専門で扱っている領域について、話す相手によって少しずつ変え、興味を持ってもらえるようにしてみようという試みがあった。相手をよく知り、興味を持ってもらう話し方をするという点で大変勉強になった。
26	就職してから英語が今まで以上に必要になること、企業に入ってから学び続ける必要があること。
27	自分の専門以外の研究を聞く機会があり、専門外の研究を丁寧かつわかりやすく説明しなければならない重要性を気づきました。
28	企業が博士人材に求めるところ
29	企業は博士人材に特殊な専門知識を期待する場合はほぼなく、専門力を身に着ける過程で得た力に期待をしている。
30	自身が企業に求められるとしたらどのような部分なのか考えることができた。
31	一回で多様な会社と連絡が取れて、大変効率的だと考える。
32	企業数が多いので、疲れる。
33	新型コロナウイルスの影響下なので、オンラインでの対応に際しては企業によって差があると感じました。たとえばzoomの扱いの習熟度合いによってタイムコントロールの難しさが変わりました。普段からのこうしたオンラインツールの扱いや、オンライン上での振る舞いに留意することが重要だと思います。
34	将来何をやりたいのかが少し明確になった
35	専門外でもマッチングは多く存在すること。専門性というよりはその過程で培った能力を見られている印象を受けた。
36	企業が博士人材に求める能力や姿勢など
37	企業の方が動画を観て下さり、私の動画のどこに興味を持って下さったのかをチャットで伝えて下さるのがためになりました。
38	自己アピールの仕方や、会社が博士人材に求めていることを学ぶことができ、このような就活体験は初めてでしたが、とても勉強になりました。
39	異分野の可能性
40	大手製薬研究職以外に就職の視野が広がりました。
41	やはり、対面でないとどうしても話が深くならない
42	前回の対面で行なった赤い糸会&緑の会と比べ、企業との交流レベルが大きく低下したと感じた。やはり対面による説明、赤い糸会終了後における立食形式でのパーティの場がなく、そのような場でこそ生まれるコミュニケーションも非常に有用なものとなるため、こればかりは残念だと感じた。
43	企業でも基礎研究などは行っていることが気づきました。また、ワークライフバランスについてよく考え始めました。
44	はい
45	製薬企業でもシーズの研究をしている
46	私にとって、就職説明会に参加したのはこれが初めてでした。だからすべてが新しい。多くの参加者がオンラインでのコミュニケーションをより快適に感じているように思えます。

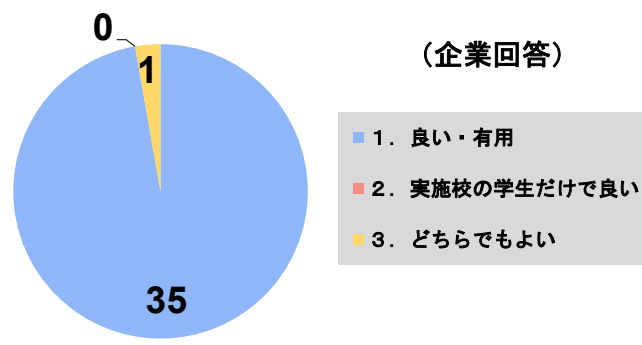
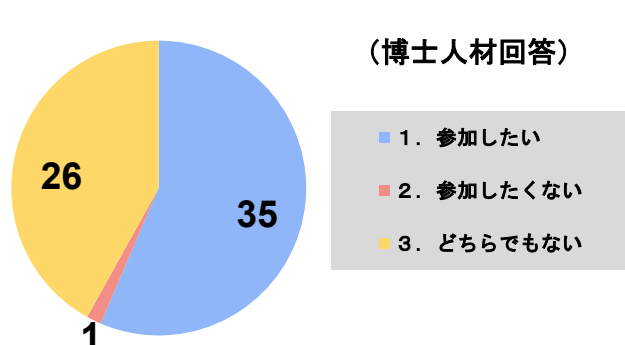
[12] 「赤い糸会」へ参加して新たな気づきはありましたか。(博士人材のみ)

47	今まで注目していなかった企業に可能性を感じることができました。
48	自分の専門以外でも会社の中で自分の能力を活かすことができる可能性を感じました。
49	博士採用であっても、必ずしも専門分野は企業のそれと一致していなくても構わないという企業が多いことがわかった。製薬業界での仕事内容や研究動向などについて理解できないことが多く、事前の業界研究の不足を感じた。真にやりたいことについてあまりわかっていないことがわかった(自己分析の不足)。
50	異分野でも活躍できる可能性があること
51	かなり行きたい企業を絞っていかないといけないと思いました。
52	修士卒の就職活動の際よりも博士人材の採用は企業選択の幅が狭いのではないかと考えていたが、非常に幅広い企業、業界に可能性を感じた。
53	異業種という考え方が廃れつつあること。
54	研究職以外の業種にも興味をもてた。
55	企業の方は思ったよりずっと専門分野に拘らず人材を求めているということ
56	自分を磨く、具体化する必要がある
57	ONLINEの難しさ、どうやり取りすべきか分からなくなる
58	企業に就職したとして、自分の専門性を活かせるのか不安だったが、先に就職した先輩方はしっかりとやれている、ということがわかった。
59	はい、自分から始まるのもっと頑張らないといけないと感じました
60	企業のネームバリューや大衆の印象だけで判断しては駄目で、自分で企業をよく知ろうとすることが大切なのだと再認識しました。
61	博士に求めるものは会社によって多少異なる
62	対面よりもコミュニケーションが取りづらい

[13] コンソーシアム(全9大学)の取り組みについて

連携校マッチングイベントに参加可能なことについて(博士人材)

連携大学の学生が参加していることについて(企業)



欄外コメント

- ・参画大学の範囲をさらに広げて頂きたい。
- ・企業にとっても、個別よりもコンソーシアム対応の方が効率的であると感じた。
- ・ぜひ連携強化していただきたい

[14] 今後博士人材へ期待すること・要望など(企業のみ)

(企業)

1	問題に対して解決意識の高い、モチベーションの高い方との出会いがあると嬉しく思います。
2	過度な産業(会社)への歩み寄り、しないでほしい。
3	修士以上の論理的思考力、研究に対する熱意、コミュニケーション能力の高さ
4	自身でやりたいことをしっかり描き自走できること、挑戦するという思いをしっかりと持っていることは大切かと思えます。
5	他分野の技術を融合しビジネスに結び付けていく意欲のある博士人材が企業で活躍していくことは、これからの日本にとっても重要だと思えます。
6	引き続き幅広い視野をもって活動いただければと思います。
7	質問をしていただきましたが、ご自身のアピールも交えた質問になるとさらに良いかと感じました。
8	ご自身の潜在的なアスピレーションを明確化していただく
9	<ul style="list-style-type: none"> ・専門性の更なる向上 ・異分野の学び促進 ・複数の技術を融合して事業化していくようなテーマ設定力 ・リーダーシップ など
10	特にありません。
11	専門性を高めつつも、そこに固執することなく自分の可能性ややりたい事を見極めてもらえればと思います。
12	専門性は勿論、博士研究を通した「課題発掘⇒設定⇒解決」の経験に引き続き期待しております。
13	自分の専門性に囚われず新しい分野に挑戦する気持ちを忘れないで頂きたい。
14	研究テーマの技術的方向性や戦略策定した経験・研究テーマにおける技術マネジメントの経験・広い視野をもった技術課題へのアプローチ経験
15	必要に応じて他のスキルを素早く習得できる力や、やりたい事業や作りたいプロダクトのアイデアを持っている方には、ぜひ積極的にアピールいただきたいです。研究分野と弊社の事業内容の間に直接接点がない場合であっても、上記のようなスキルを持っている方は積極的に採用したいと考えています。
16	<ul style="list-style-type: none"> ・今回は従来よりもお話できる時間が短かったこともあり、質問の質をもっと高めてほしいと感じました。調べれば分かる質問をするよりも、ドクターらしい、専門性の高い質問等を期待していました。 ・自分のことを知らない人ともっとコミュニケーションを取る機会をもっとほしいと感じました。研究力や情熱があっても、それが上手く伝えきれていなかったり、コミュニケーション能力に難があるなという印象を強く持たれてしまう方が散見されました。
17	自身で研究を立案し、他者と協業しながら成果を上げられる人材
18	研究で得たスキルが活かせる分野は意外に幅広いので、そうした視点を持ってもらえればと思います。
19	自身の軸となる確固たる専門性を持ちつつ、他領域についても好奇心を持つ博士人材と多くお会いしたいと思っております。
20	今のままで良いと思えます。
21	自分の蓄えてきた能力を別の方向でも以下説という視野を持ってほしい。
22	即戦力として当社では積極的に採用していきたいです。イベントでは「自分の研究は生かされますか？できますか？同じ分野の出身の人はどんな仕事をしていますか？」という質問が多いですが、ぜひ「自分のこのスキルを生かして、こういうことがしたいです」という、一歩踏み込んだお話しができると良いかと思えます。
23	高い専門性、指導力

[14] 今後博士人材へ期待すること・要望など(企業のみ)

24	ご自分のテーマが社会の役に立つか、ブレイクダウンし過ぎるのも少々味気ないように思います。ご自分の時間を使って研究をされている以上、依って立つ気概があると嬉しいです。その上で、テーマを客観視できるのが良いと感じます。
25	課題発見力を磨いてほしい。
26	引き続き交流を持ちたいので、チャットから連絡いただけると嬉しいです。
27	グローバルの視点に立ってものごとを判断できる人材になって欲しいと思います。
28	論理的思考能力を有すること(今回の学生にないという意味ではありません)
29	現状の研究に固執しすぎることは、ないと思います。
30	研究テーマを活かして即戦力で弊社の研究開発をリードして欲しいと思っています。
31	研究室、大学で精いっぱい学び、体験していただいた上で、企業に来てほしい
32	アカデミックな視点での研究追行能力
33	問題を解決する力、課題を設定する力
34	未知のことを自分で調査研究し、切り開く能力を朝日新聞社のデジタル分野で発揮してもらいたい
35	提出動画のとおり、まずは自身の専門性を磨き上げてほしい。一方、製薬企業志望であれば、自身の専門外の領域にも興味を持てるような高い探求心・研究姿勢が必要であり、常に挑戦する心を持ってほしい。
36	自身の専門性を活かすキャリア選択の一つとして、より企業研究者の活躍を知ってほしいと思います。

[15] 全体を通して、「赤い糸会」についての感想など

(博士人材)

1	専用サイトの使い勝手をもう少し良くしていただき良かった。
2	要望は二点あります。 ・個別交流会(フェーズ3)で面談する企業を決める抽選についてですが、タイミングが早すぎると思いました。できれば、フェーズ2の途中で希望を出したかったです。 ・個別交流の時間が20分では短すぎるので、最低でも30分は欲しいです。
3	初のオンライン開催のため仕方がない点も多いかと思いますが、動画以外に企業の方に直接個人や研究内容のアピールをする場がなかったことはとても残念でした。ログインが必要でメール等での通知もないチャットは頻繁なやりとりには向かず、またzoomの対面での交流は1対1ではないため、当初思っていたより深い交流ができなかったと感じています。また個別交流について、企業の動画を視聴してからアンケートをとっていただき良かったと思っています。企業の方からお声がけいただいても、または動画を視聴して希望外だった企業に訪問したいと思っても、振り分けが決まってしまうので赤い糸会内で個別交流が叶わなかったことが多くありました。良かった点としては、動画を作成したことで対面よりも一度に多くの企業の方に見ていただけた点ではないかと思っています。
4	Zoomの名前欄に、専門分野と学年(理D1、薬D2など)があると、企業の方もより聞き手に応じた話ができるのでは、と考えました。
5	初めてということもあってか、仕組みが直前まで分からなかったのはつらかった。
6	赤い糸会は自己アピールが上手な就活生にとっては良い機会となるかもしれないが、下手な就活生にとっては企業に対して悪い印象を与えてしまい就活に不利に働いてしまうと感じた。
7	製薬企業の就職活動が9月ごろから始まるため、赤い糸会はそれよりも早い時期に行った方が良いと思う。
8	訪問スケジュールは、意識していなかった企業の方からの連絡もあったので、せめて個別チャットの後に決めてほしい。

[15] 全体を通して、「赤い糸会」についての感想など

(博士人材)

9	対面式の赤い糸会には参加していないのでわかりませんが、ONLINEになり、開催期間が長くなったことで非常にじっくりと、漏れなく企業の方とのやりとりをできたと思います。 Phase 1に関しては、Phase 2にマージしてもう少し日程を少なくとも良かったのではないかと感じました。 また、個人的には他の学生の方の動画も見れたのが、自身の自己PRの仕方を見つめ直すきっかけになったので非常に良かったです。
10	D1のこの時期でも少し遅いように感じたので、M2の博士進学が決まっている学生も参加させるのはどうでしょうか。
11	化学メーカーが2日目に結構多く、回りきれなかったのが、バランスをとっていただけると有り難いです。製薬はバランスがとれててありがたかったです。 また、来年就活年度ですが、対面の赤い糸会に参加したいです。
12	赤い糸ONLINE専用サイトで、個別のチャット欄が広げられない点が誤字脱字を確認するのに少しだけ使いづらいかと感じました。今回は初参加でしたが、人材育成本部の皆様のご支援により、システム変更の中スムーズに交流できたと思います。ありがとうございました。
13	個別交流会の時間が短かった(30分位ほしかったです)
14	思ったよりもコネができるような雰囲気ではなかった。企業側はコネを作りに来ているのか、単に企業紹介しに来ているのかの判断が難しかった。
15	企業を多くした方が良い
16	ONLINEでは、各セッション間の休憩が短く感じたので、もう少し休憩時間をこまめに取っていただけるとありがたいです。また、研究室や自宅での安定した参加が難しい人向けにどこかで部屋を取ってもらえると助かる人がいるかと思います。
17	用意してくださった参考動画が、本当にためになり、参考になりました。就活について、気負ってしまい、つらいものだと考えていました。吉原先生のお話や参考動画を見ていく中で、自己PRはこちら側からの一方通行のものではなく、企業と会話するためのツールだと思えるようになりました。また、プレゼン演習では同じような悩みを持つ博士課程の方と素直に意見を交わすことができ、異分野の方の話も聞くことができ、視野が広がりました。運営の皆様の赤い糸の会に向ける情熱が伝わってきて、こんなに親身に真摯に向き合ってくださいの大人がたくさんいるのだと感じ、勝手ながら安心したような気持ちになりました。参考動画やプレゼン演習など様々なツールを用意してくださったことに感謝しています。
18	企業の方の、自分の動画閲覧数が分かるようになると、動画によるPRが上手く行ったかどうかをもっと分かりやすくなると思いました。
19	お世話になりました。非常に有意義な会でした。
20	メールを細かく送ってもらうのはありがたいですが、情報が分散してまとめて把握するのはちょっと難しいです。
21	アクセスできる期限をもう少し延ばしてほしい
22	Thank you. Please accept more international students.
23	チャットを使い慣れていないので、説明があると嬉しいです。対面ではないので、企業の方との連絡の取り方に戸惑いました。
24	午前中から開始してもう少し企業と話せる機会が欲しい。
25	初めてのONLINE開催で大変な中、様々にお気遣いいただきありがとうございました。自身のキャリアを考える上で大変参考になりました。
26	phase1の必要性を感じなかった。企業にリクエストを送ったからといって返信が返ってくるとは限らないため、phase2との違いを感じなかった。また、phase1,2の期間が短く、土日はサイトが閉鎖されたのも動画視聴の点で不便であった。
27	1回あたりのセッションの時間を短くし、もう少し人数を制限することでより企業と話しやすい環境になったのではないかと思います。
28	今回はオンラインだったので仕方ないと思いますが、各企業と20分で質疑というのは時間が短いと思いました。

[15] 全体を通して、「赤い糸会」についての感想など

(博士人材)

29	大変有意義な時間を過ごすことができました。赤い糸会の運営に携わった方々に感謝いたします。この素晴らしい会がより多くの博士人材に知られるようになることを願います。
30	フェーズ3では、質問メインにしてほしい。チャットもしても反応が悪い企業が多く、フェーズ3ではチャットだけでは聞けないことを聞きたい。ほぼ企業紹介で終わった企業があり、不満だった。チャットは既読されたかどうか見えた方がよいと思う。
31	企業へ: 企業の紹介は専門的に作った動画もいいですが、仕事をイメージできる内容がもっと欲しかったです。詳しくどのような課題に当たり、どう解決していくのかなどです。
32	開催して頂きありがとうございます。最初に4つまわるブースを決める所を企業の人と多少コンタクトを取った段階で決定できるといいなと感じました。あとこれは愚痴なんですけど、向こうから質問してきて回答したのに全く返事がないことがあって、返事しろよという気分になりました。
33	個人的には企業研究の時間が少なかったと反省しております。慣れない作業が重なったことと、いくつかのトラブルでスケジュール調整をミスしたことが原因です。赤い糸会に対して要望があるとすれば、動画作成の作業スパンを例示していただけると、急なトラブルがあってもスケジュール調整がしやすくなるかと思えます(例えば、iMovieを用いた動画編集作業の工程を紹介するなど)
34	赤い糸会ONLINEでは一瞬でも企業の方と一対一になる時間が欲しかった
35	企業の動画を見てから、訪問企業のアンケートを回答したかった。企業からチャットが来た際に登録メールに通知が欲しい。
36	要望として、企業の動画視聴やチャットのやり取りが終わってから、訪問希望のアンケートをしてほしかったです。先に訪問先が決まっていたため、チャットを送らずとも動画を見てくださった企業に訪問することができませんでした。(3件来ていたため2つ選ばざるを得なかった)
37	グループセッションに参加したい企業を選ぶタイミングがもう少し遅い方がいいなと思いました。チャットしてみて企業の印象が変わることがあったので。
38	今回ONLINEだからこそハードルを下げて参加することができました。8月のセミナーも、博士の皆さんや協力教員の先生方とお話しでき、大変勉強になりました。ONLINEは遠いところからでも参加しやすいですので、とても良い形態であると思います。慣れないことが多い中、丁寧にサポートいただきありがとうございました。
39	お互いの動画を見れる時間(phase1,2)がもう少し延長して欲しいです
40	特に無し
41	訪問企業を決める際に動画を視聴してから候補を言いたかった
42	企業の方も参考動画や付随的なスライドを pdf 形式でダウンロードできるようにされているので、学生側も動画内で使用したスライドや追加情報を記載した pdf を研究アブストとは別にダウンロードできるようにしたい。3分半の動画では伝えきれないことが多いため。
43	初めての赤い糸ONLINEでしたので、非常に難しいところがあったと思いますが、可能な限り今後のイベントのウェブサイトを少し改善したらさらに企業とチャットできるようになると思います。
44	企業の説明と質問トータルで20分は少なく感じました。企業によっては、ほとんどの時間を自社説明に使っていたところも…。
45	企業の方と直接話すことができ、その企業で働くイメージが少しできた。Zoomで話す時間が20分と短くもって企業の方と話せばよかった。
46	すべてが素晴らしかったです！ S-cubicチームは素晴らしい仕事をしました！ Webサイトに問題が発生することがありましたが、修正されました。

[15] 全体を通して、「赤い糸会」についての感想など

(博士人材)

47	<p>今年はコロナ感染拡大防止のため、これまでの形式と異なる形とはなりましたが、このような機会を設けていただけたことに感謝しております。「赤い糸会」については以前からお話を伺っていましたが、交通費や日程調整が難しかったりして参加を見送ってしまいました。しかし、今年はオンラインで開催とのことですぐに応募しました。北海道大学はこれまで蓄積してきた企業様との関係や経験が違いますので、動画に使用するPPTを作成する際に使用した動画や意見交換は学ぶことが多く、参加してよかったと思います。私はD2なのでこれから本格的に就職活動を開始しますが、その前に参加できたことはとても幸運でした。反省点は多くありますが、今回の交流会でできた縁を大切にしつつ、今後の活動に活かしたいと思います。不具合があった際は迅速に対応していただけて本当に助かりました。慣れないことも多く大変だったかと思いますが、スタッフの方々に感謝申し上げます。お疲れ様でした。</p>
48	<p>今回始めて参加してとても勉強になりました。またこのような機会があれば参加したいと思います。</p>
49	<p>貴重な機会を下さりありがとうございました。動画作成の要領、企業の方との直接対話など、非常にためになる経験を得ることができました。</p>
50	<p>やはりコミュニケーションはポスターセッションがあった方がしやすいとは思いました。</p>
51	<p>今回はオンライン開催だったこともあり準備等大変であったと思います。スタッフの皆様、どうもありがとうございました。</p>
52	<p>企業動画のページなどで、企業が交流したいあるいは今後ほしいと考えている人材の専攻分野や能力がわかるようにしてほしい(専攻不問、今後はバイオ事業の展開を考えているため生物系専攻希望など)。リコーの個別交流会の際に、今後は脳・神経系の事業に力を入れていきたいようだったが、動画やホームページでは感じ取ることが困難であったため。</p>
53	<p>動画作成など、オンライン化が進んだことで提出物の難易度が上がりました。博士人材に求められることが増えているように思います。研究ばかりでは良くないということは理解していますが、研究の時間が圧迫されてしまったようにも感じました。一方、会が始まってからは有意義な時間を過ごす事が出来ました。知りたい企業の動画を研究等の隙間時間に見る事ができるという方法は、とても有難く感じます。また、チャット方式で進めることで、メールよりもやり取りすることへのハードルが下がりました。積極的に質問する事が出来たと思っています。</p>
54	<p>現在のコロナ下では難しいですが、やはり対面の方が良いと思う</p>
55	<p>チャットでのアピールや交流が難しいと感じたのもう少しだけ具体的な活用方法を教えていただけると助かる</p>
56	<p>先方との調整もあるとは思いますが、スケジュール感がわかりがたい。また、実験予定等で組みにくかった。就活も大事だが、赤い糸会だけに専念もし難いため、コンパクトにまとめていただけるとありがたい。</p>
57	<p>専用ページが微妙に使いづらい、かゆいところに手が届かないような感じ</p>
58	<p>特にありません。</p>
59	<p>専用サイトの使用期間をもう少し伸ばしてほしいです。また、学生同士の交流ももっとできるようになったらと思いました(動画にコメントをつけるなど)。</p>
60	<p>特にありません。</p>
61	<p>主催いただき、ありがとうございました。企業にとっての博士人材の採用がどのような期待をもって行われるのか、少し理解することができました。また、色々な企業の方とお話しするのは単純に面白かったです。</p>
62	<p>赤い糸ONLINEのWebサイトをもっと長期で使用したい</p>

[15] 全体を通して、「赤い糸会」についての感想など

(企業)

1	この時期に学生と交流ができる素敵な機会を頂き、ありがとうございました。
2	オンラインは非常に良かった。事前に学生のプレゼンが見れるコンタクトができる点が特に良いと感じた
3	とても良かったと思います
4	チャットで多くの質問をいただき、学生様がどのような点を気にしているのか、どんなことを知りたいと思っているのかを知ることができ参考になりました。
5	きちんとしたご指導の賜物ではあると思いますが、プレゼンの内容がやや画一的で、学生の個性を感じるのが難しい部分もありました。せっかくのビデオ動画なので、1分ぐらいでも自由に個性を披露するようなコンテンツも入れてくれると、より学生に対する興味や理解が深まるのではないかと思います。
6	専用サイト、zoomでの交流ともに非常にスムーズでした。また、専用サイトの動画については、どの参加者の方もわかりやすく工夫を凝らして作成されており、非常に驚きました。個別交流でも積極的にご質問等いただくなど、優秀な博士人材の方との貴重な交流の機会を誠にありがとうございました。
7	いつもご丁寧にありますありがとうございます。今回のイベントは20分で博士人材とのかかわりが短く、残念ではありましたが、良い機会でした。
8	実施スロットを全体的に減らして、開催時間を長く設けていただきたい
9	非常に先進的で、マッチングのはかりやすいシステムでした。ご苦労も多かったかと思いますが、多くの学生と接点を持って、大満足の内容でした。引き続き、是非ともよろしくお願い致します。
10	非常に良い機会を頂き感謝致します。
11	多少のトラブルはありましたが、良い試みだと思います。
12	学生の発表を企業の人間がLIVEで聞く場があると更に良いと思います。
13	参加者が4名程度いると個別座談会の設定時間20分間は短く感じた。
14	メリット、デメリットがあるが、これからの働き方に合ったやり方であると思う
15	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な分野の研究者の方の研究を知ることができたのと同時に、弊社に関心を持ってもらえる機会となったため、有意義であった。 ・参加者は生命科学系の研究者の方が多く、弊社の分野と直接接点がある方はそれほど多くなかった。情報科学系の研究者の方の参加も増えると弊社の分野にはよりマッチすると思う。
16	<ul style="list-style-type: none"> ・業務の合間にプレゼンを視聴できるといった点で、従来よりも負担が減ったと感じた。 ・双方向での研究のディスカッションができなかったため、研究に対する熱意を汲み取りづらかった。 ・20分×6回では短く、やはり懇親会のようにフランクに話せる場がほしいと感じた。 ・ほぼ強制的に名刺交換する機会のあった従来と比べ、連絡先の交換が難しくなったと感じた（学生側から積極的にアクションがほしいです）
17	セッションは30分でもよい。オンラインの方が参加人数が多くよい
18	コロナ禍への急な対応だったかと思いますが、オンラインの特徴を生かした有用な会だったと思います。ありがとうございました。
19	オンラインになっても変わらず、非常に良い人材にお会いすることができたと感じています。ただ、やはりリアルで学生の皆さんにお会いしてお話したいと感じました。
20	ONLINEの方が準備も多く、学生さんの資料を見るのも時間がかかります。また、どうしても偶然の出会いが少なくなってしまうことが懸念であると感じました。
21	博士人材との接点を持つ機会を頂き感謝しています。
22	オンラインでは初めてということもあり、お互いの熱量を伝える、感じ取ることが難しかったです。
23	専用サイトを設置される等、Drと企業の橋渡しとして素晴らしい機会となった

[15] 全体を通して、「赤い糸会」についての感想など

(企業)

24	今回最初ということで運営の方に大きな負担がかかったかと存じます。お疲れ様でした。その上で気になった部分を記載させて頂ければと思います。 ・赤い糸ONLINE本番については、企業説明は当社枠に来た学生に応じ、部門の説明をアレンジすることが必要であるため、単一の録画では不十分であり10分くらいはかかってしまう一方、来た学生の質問へ相応に答えることを考えると4人で20分では少ないと感じました。また、BORIに分かれた後メインルームに戻す際、5.1分前のアナウンスみたいなものがあったとも良かったと思います。 ※リアルであれば、途中途中に学生との情報交換や、メインスピーカー以外の対話等があるため、何とかなるところでした。 ・ブース説明2回ごとくらいに、休憩を兼ねた企業説明を受けた人向けの出入り自由なフリータイム10分、のような時間が有っても良いと思いました。 ・chatについて、修正が出来なさそう（できるのでしょうか・・・）なのは非常に困り、社内の分野の専門家でPCに慣れていない社員に力を入れてもらうことが憚られました。
25	チャットでの事前コミュニケーションが有用であった。
26	幅広い専攻の学生とお話できて非常に良い場でした。
27	今年はONLINEでの開催でしたが、ぜひ来年はFace to Faceで参加したいと思っています。
28	通信環境と仕事の都合により、事前にビデオを見るできませんでした。
29	交流の時間が少し少なかった。
30	動画視聴開始から交流まで一定期間があるので、それまでに学生とやり取りできるのは良いと感じました。ただ、時期として9/末～10/頭が弊社の期末期初と重なり学生とのチャットでのやり取りが十分にできなかったため、（今回はイレギュラーだと思いますが）可能であれば異なる時期での検討を頂けると幸いです。 なお、交流させて頂いた学生はどの方もプレゼン能力、コミュニケーション能力が高く、感嘆いたしました。
31	システムやフローなど若干複雑だった。よりシンプルなものの方が好ましいと感じた。
32	学生と企業とで相互に発信、コンタクトを取れ、双方にとって効率的にマッチした相手が見つかると感じた。
33	例年、情報科学、工学系の人材が少ないので、もっと人材として含めてほしい。
34	事前にセッションに来る学生がわかっているのであればご教授頂きたかったです
35	事前に動画や資料を共有させていただき、学生に事前インプットいただくことは非常に有難かった。一方、学生情報の閲覧がしづらいシステムであった(途中で頻りに固まるが多かった)。また個別交流については1セッション辺りの時間が非常に短かった(30分/受入学生の増員を希望)。
36	チャットを活用し個別の学生さんと接点を持つのは良かった。個別交流は実地の時と比べて、学生個人ごとに話すことができず、自社への興味度合いが図りにくい。また個々人との会話ができないため、採用対象かの見極めをその場で行うのは困難である。

[16] J-Window(人材育成本部教員との面談・エントリーシートなどの添削・面接練習)を希望しますか(博士人材のみ)

